

3・11 後 を生きる

四月に一般社団法人IKIZEN（イキゼン）を仙台市で立ち上げ、代表理事を務めております。前職の同市委託事業施設「東北ろっけんパーク」では、復興物産市の企画運営などのアドバイザーとして、被災地の作り手の販路拡大を支援しました。そのつながりを、東北の復興と発展に一層役立てたいと設立したのがIKIZENです。

私たちは、生産、加工、販売の六次産業化を後押しし、ものづくり支援の拠点としての役割を担う事業を行っていきます。その中で携わってきた商品を三週間にわたり、この欄で紹介いたします。

私が初めて気仙沼市鹿折地区を訪ねたのは二〇一一年四月でした。乾物の卸業を営む

一般社団法人IKIZEN
代表理事

齋藤由布子さん



気仙沼の四季ふりかけて

「小野寺商店」は同地区に店を構え、創業七十年を迎えていました。津波で店舗は全壊。家も店も失いましたが幸い家族は無事。気仙沼に小野寺由美子さんが嫁いで二十一年目のことでした。

アや観光客が訪れました。由美子さんはそんな方々へ感謝の気持ちを伝える「オリジナルふりかけ」を作りたいと思いつきます。

震災翌年にオープンした仮設商店街「鹿折復興マルシェ」で小野寺商店は本格営業を再開し、多くのボランティア

小野寺商店の売りは、顔が見える付き合いから仕入れる確かな乾物の品質。祖母の代から知る漁師さんが手仕事で作る乾燥わかめや海苔、つくだ煮は、食べたらとりにこなる一級品ばかりです。そんな売れ筋の海藻を絶妙なバランスで配合したのが「気仙沼 海ごはん」



写真です。炊きたてご飯にふりかけると、湯気とともに潮

の香りが立ちこめ、スープに入れば、ゆらゆら漂う昆布やワカメとふのりの姿が気仙沼の景色と相まって憧憬を感じさせます。「気仙沼の四季を表現したい」離れている家族や支援してくれた方々に気仙沼を感じてほしい」。そんな故郷への思いと優しさが込められた渾身の一品です。



高級ふりかけ「気仙沼 海ごはん」は三十袋入り、六百円(税込)。ホームページは「山長小野寺商店」で検索。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

東北復興日記